

Hirosaki
MOCA
Letter

vol.07

TAKE FREE

弘前 れんが倉庫 通信

弘前れんが倉庫美術館を
もっと楽しむフリーペーパー

特集：開館3周年！ 美術館のいろいろ

夕暮れの光が溶け込む窓に、おぼろな人影がうつる。
止まっていた時計の針がふたたび動き出すときに似た、
どこか心もとない速度で、それらの影は窓から窓へうつっては消えていく。
煉瓦の継ぎ目をなぞるように、視線をゆっくりと足元へと落とす。
繰り返される日々の内側で、密かに年輪を重ねた木々が、
いままさに太い幹を伸ばしている。

開館3周年！ 美術館のいろいろ

資料展示「煉瓦倉庫が美術館になるまで」

2023年7月下旬から2階のライブラリーで資料展示を始めました。建物の歴史を紹介する年表と、酒造工場やシードル工場時代、三度の奈良美智展を経て美術館が誕生するまでの写真パネルに加えて、かつて製造されてい



建設中やシードル工場時代の写真、かつて使われていたシードル瓶も展示

たシードルの瓶、美術館の改修設計を手がけた建築家の田根剛さんによるコンセプト模型も展示しています。ライブラリーは入場無料なので、気軽にお立ち寄りください。



田根剛さんによるコンセプト模型

弘前れんが倉庫美術館は、2020年の開館から3周年を迎えました。美術館では展覧会のほかにもトークイベント、建物にまつわる資料展示、メンバーシップなどのプログラムを実施しています。今回の特集は、美術館のさまざまな活動を紹介します。



100年以上の歴史をもつ建物の歴史を紹介



撮影：木奥恵三

コレクション紹介

IROIRO 03

和田礼治郎
《AMBER WINDOW (HIROSAKI)》
2022年

2階のホワイエスペースの窓にあわせて制作された立体作品です。りんごの蒸留酒であるアップルブランデーが使われ、2枚のガラスの間に閉じ込められた空気とブランデーは、外気の温度や湿度の変化によって絶えず移ろいます。窓の外の日常の景色に思いがけない変化がもたらされるかのようです。

※本作の鑑賞には観覧券が必要です

IROIRO 01 建築ガイドツアー

館内を巡りながら、建物の歴史やみどころについてスタッフが解説します。初めて当館を訪れる方、建築・デザイン、美術館の成り立ちなどに興味がある方におすすめです。

開催日：毎月第3土曜日 11:00-11:30
定員：10名
参加無料・予約不要

IROIRO 02 ラーニングプログラム

1. 鑑賞支援ツール

作品より深く味わうためのツールとして冊子を配布しています。作品の簡単な紹介や目を向けてほしいポイントなどを掲載しているので、見つけたらぜひ手に取ってみてください。展覧会「大巻伸嗣—地平線のゆくえ」(2023年4月15日～10月9日まで開催)では、小学生とその保護者向けの「みっけブック」、中学生以上向けの「じっくりと自分のきづきを見つめるための本」を配布しました。また、展示を見て心に残ったことや、誰かに伝えたいと思ったことなどを言葉や絵で書き込む「のこったシート」もあります。



「みっけブック」、「じっくりと自分のきづきを見つめるための本」



「のこったシート」展示風景



写真上：
夏休みミニ工作ワークショップ「マーブルブローチをつくろう」の様子(2023年8月5日・6日開催)
写真左：
展覧会鑑賞×演劇創作ワークショップ「もうひとつの地平線」の様子(2023年8月19日開催)

2. ワークショップ

展示だけでなく、さまざまなワークショップも開催しています。2023年度前半は、展覧会「大巻伸嗣—地平線のゆくえ」を鑑賞し、身近なリサイクル素材を使って展示室にひそんでいそうな生き物を作ったり、色鮮やかなブローチを作ったりするワークショップを開催しました。また、手を動かすだけでなく、身体や言葉を使って短い演劇のシーンを創作するワークショップも実施しました。ほかにも子どもから大人まで参加いただけるさまざまなプログラムを企画しています。

※展覧会により実施の有無は異なります。

IROIRO 04 学芸スタッフによるギャラリーツアー

アーティストについて、展覧会の背景や作品の魅力を紹介するツアーです。展覧会をより深く味わいたい方、学芸員の話を知りたい方におすすめです。

開催日：展覧会ごとに異なります



IROIRO 05 アーティストトーク

展覧会の出展アーティストが出演するトークでは、作品ができるまでの過程や、展覧会に込められたアーティスト自身の思いなどを聞くことができるチャンスです。おもに展覧会の開幕に合わせて開催されるので、美術館のウェブサイトやSNSをチェックしてみてください。

「大巻伸嗣—地平線のゆくえ」オープニングトークの様子(2023年4月15日開催)



IROIRO 06 H-MOCAライブ

月1回程度、スタジオやライブラリーで開催するシリーズ「H-MOCAライブ」。H-MOCAとは当館の英語の略称で(Hirosaki Museum of Contemporary Art)、エイチ モカと読みます。トーク、映画上映、音楽ライブ、ワークショップなど多様なイベントプログラムを実施しています。



トーク「『かわいい』ってなに？」の様子(2023年7月23日開催)



トーク「桃に似たひとくどうれいの空腹を満たす言葉のはなし」の様子(2023年8月26日開催)

PICK UP!



PICK UP! 01 「H-MOCAメンバーズ」を知る 入門編

H-MOCAメンバーズって何?

美術館の活動をサポートし、アートの世界をより楽しんでいただけるメンバーシッププログラムです。さまざまな特典をご用意しています!

展覧会のフリーパスがあるって聞いたんだけど...

個人会員(一般)の方は、年会費5,000円で、いつでも何回でも展覧会を鑑賞できます。受付でメンバーズカードをご提示ください。

他にはどんな特典があるの?

いち早く展覧会を観られる内覧会に参加できるほか、イベントの割引もあります。そのほかにもカフェでのお食事やスタジオなどの貸出施設が10%オフなどのサービスがあります。また、年2回フリーペーパー「弘前れんが倉庫通信」(本誌)をお届けします。

どんな人が会員になっているの?

学生からシニアの方まで幅広い年齢層の方が会員になっています。ぜひ入会してみませんか?

PICK UP! 02 CAFE & RESTAURANT BRICK おすすめメニュー 「弘前産シードルの3種飲み比べセット」 1,800円(税込)



※お酒は20歳になってから

CAFE & RESTAURANT BRICKではおすすめシードル3種類を飲み比べできます。りんごの品種や酵母の種類、発酵の手順などによって、さまざまな香りや味わいを楽しめます。

PICK UP!
PEOPLE

美術館とまちをつなぐ
わたし・アート・まち

旅のきっかけを与えてくれた 沢木耕太郎の『深夜特急』

cidre&café POMME/MARCHÉ

中山 智さん、中山 未央さん



弘前市内でシードルカフェを運営している中山夫妻にお聞きしました。

智さん「私も妻も以前は東京の会社に勤めていましたが、シードルに関わる仕事をしたいと思い、2021年に弘前でカフェ『ポム・マルシェ』を開店しました。シードルに合う料理と飲み比べセットなどを提供し、シードル文化の普及に取り組んでいます。」

未央さん「私たちは、ヨーロッパ旅行を通じてシードルと出会いました。もちろん日本にもシードルはありましたが、フランスやスペインでは料理に合うシードルが作られており、より身近な存在だったんです。その味わいと、シードル文化が根差す暮らしに強く惹かれたことが、現在のポム・マルシェへとつながっています。いずれ自分たちの醸造所も立ち上げたいと思っています。」



智さん「近年は夫婦でヨーロッパを回っていますが、元々、旅をすることが好きでした。旅のきっかけは、学生時代に会った沢木耕太郎のノンフィクション『深夜特急』。乗合バスを乗り継ぎ、ノープランで知らない土地を回る自由さに憧れました。旅を通じてシードルとの出会いをもたらしてくれた、原点ともいえる大切な一冊です。」



【cidre&café POMME/MARCHÉ (ポム・マルシェ)】

1978年建設の建物をリノベーションした複合施設「HIROSAKI ORANDO」。カフェは曜日によって「café ORANDO」と、中山さんたちの「cidre & café POMME/MARCHÉ」が入れ替わって営業。

弘前市百石町47-2 TEL 0172-40-3950

時間11:00～19:00 日、月、火曜営業

※水、木、金、土曜はcafé ORANDOによる営業(時間12:00～21:00)

聞き手・文：ものの芽舎 撮影：成田写真事務所

Join us /

ボランティア「れんが倉庫部」

10代から70代まで幅広い年代の方が所属し、広報やイベントのサポート、館内コンシェルジュなど様々な活動に取り組んでいます。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。



▲ 詳細はこちら

弘前れんが倉庫美術館

【開館時間】9:00～17:00 ※但し、金曜日・土曜日に限りスタジオ、ライブラリーのみ21:00まで開館

【休館日】火曜日(祝日の場合は翌日に振替)、年末年始

〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1 [TEL] 0172-32-8950 [Mail] info@hirosaki-moca.jp

当館には駐車場はございません ※お車でお越しの際は近隣の有料駐車場をご利用ください

【表紙写真】撮影：畠山直哉 【編集協力】ものの芽舎 【デザイン】デザイン工房エスパス 【印刷】凸版メディア株式会社

【編集・発行】弘前れんが倉庫美術館(指定管理者 運営業務担当 エヌ・アンド・エー株式会社) 【発行日】2023年10月31日

STAFF
VOICE

美術館のおしごとアレコレ
スタッフに聞きました!

弘前れんが倉庫美術館 Members #07

運営チーム 石川 公子



美術館をアート鑑賞の場としてだけでなく、より幅広い文化交流の拠点に——。弘前れんが倉庫美術館では、この目的のために、貸出スペース(スタジオ3室と市民ギャラリー)を設けています。これを担当するのが、石川公子さん。開館当初からのスタッフです。鶴田町出身、都内の大学に進学し、映画館勤務を経てUターンしました。

美術館では、貸出スペースの利用促進のために「H-MOCAライブ」を開催しています。これまで、トークや音楽ライブなど約20回。映画上映も行っており、作品セレクトやフィルム手配など石川さんの知識と経験がここに生かされています。地道な活動が実を結び、アートファン以外の来館者も増えているそうです。

「映画ひとつをとっても、東京に比べ弘前では上映機会が少ない。H-MOCAライブが弘前の皆さん、特に若者たちが文化にふれる機会になれば」と石川さんは期待を寄せます。

聞き手・文：ものの芽舎 撮影：成田写真事務所

Exhibition information 展覧会情報

2023年度 秋冬プログラム

松山智一展：雪月花のとき

会期：2023年10月27日(金)～2024年3月17日(日)



松山智一(1976年生まれ)は、ニューヨークを拠点に活動し、鮮やかな色彩と精緻な描線による絵画や、大規模なパブリック・アートとしての彫刻など、大胆さと繊細さを併せ持った作品を発表しています。

本展は、作家にとって日本の美術館での初個展です。コロナ禍を前後する時期に制作した近作と本展で初めて発表される新作を中心に、アーティストとしての進化と深化の過程を紹介します。

左：松山智一《Hello Open Arms(両腕に掲げられ、両手を上げろ)》2023年 個人蔵

右：松山智一《People With People(心の連鎖反応)》2021年 株式会社セーニャ蔵

HIROSAKI
MUSEUM OF CONTEMPORARY
ART